

# JPBA ちやおちやおボウリング大会 ~2023ちやおちやおハウス女子プロトーナメント~

10月6・7日 品川プリンスホテルBC

## 19歳・中島瑞葵が同世代ライバル対決制し、初代女王に!



▲ジュニア時代からのライバル石田に9ピン差競りついで新設大会の初代女王に輝いた中島。「今回はずつと頭が冴えていました(笑)」

不動産業の株式会社ナミキが主催し、昨年の「ウェッブアイカップ」に続いて株式会社 BELLが企画・運営を担った新設の女子プロ公式戦「ちやおちやおボウリング大会」(賞金総額800万円/優勝250万円)は10月6・7の2日間、品川プリンスホテル BCにプロ117名、アマ3名の計120名が参加して行われ、19歳の中島瑞葵(53期:小嶺シティボウル/ABS)が栄えある第1回大会の覇者に輝いた。中島は5月の Glicoセブンティーンアイス杯に続く今季2勝目で、プロ3年目にして早くも区切りの5勝目に到達した。



▲(左)坂本は268のハイスコアで金子との4位決定戦に完勝も、3位決定戦では「ちゃんと投げた結果が2連続スプリットスタート。そこでレーン変化に気付いた」と後手を踏んで289の石田に完敗 (右)「ボウリングは悪くなかったけど…運の部分で負けたのかな」と、金子はノーマスの238をマークしながらの4位敗退に悔しさをにじませた

石田には「全中・全高を通じて一度も勝ったことがなかった」そうで、RRでの対戦も247:248と1ピン差負け。再び敗れば、優勝まで2G余計に投げなければならなかっただけに、ライバルからの「初勝利」は実に大きかった。

今大会3度目の対決となった優勝決定戦も最後まで息詰まる僅差の接戦となったが、結果は227:218。勝利の女神は中島に微笑んだ。

「万吉はボウリングを離れ

ば友だちだけど、同じアプローチに立てば敵。これまで彼女の活躍に刺激されてやってきた部分もある。周囲にライバルと言われる関係であるのはいいことだと思う(中島)

お互い「負けたくない」「負けるもんか」の闘争心が静かに火花を散らす同世代ライバル対決。中島と石田が紡ぐ「名勝負数え唄」が、令和の女子プロ界をけん引していきそうだ。

優勝ボール:ZEN GOLD LABEL 900GLOBAL(ABS)

今大会は初日に予選12G・準決勝4G、2日目に決勝ラウンドロビン(RR)12Gと上位4名による1Gマッチの決勝ス

テップラダーまでを一気に消化するというタフなスケジュール。そのためもあってか、上位を独占したのは中島(19歳)を筆頭に石田万音(18歳)、坂本かや(23歳)、金子萌夏(19歳)と、いずれも高い技術に体力を兼ね備えたZ世代の旗手たちだった。

中島は予選1位→準決勝2位でRRに進出。石田、坂本と三つ巴の首位争いを繰り広げ、最終ポジションマッチで小学生時代からのライバル石田に234:228で勝利、8ポイント差逆転してトップシードを獲得した。

「品川では打ち合いになると予想していたので、スプリットは極力出さない、スペアミスをしたくないことを意識して投げた。何位でもステップラダーに進めば優勝のチャンスはあると思っているけれど、負けても再優勝決定戦というアドバンテージがある今回だけはトップシードを取りたいと思った」と中島。



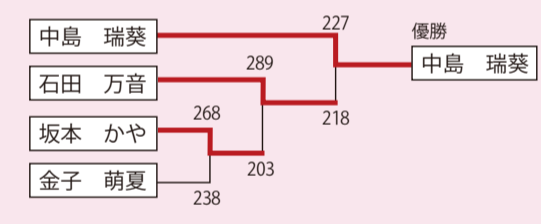
▲優勝決定戦終盤の9、10フレは無情の連続@ピンタツ。前週の山梨レディースに続く新設大会2連覇はならず、石田は「詰めが甘かったとガクッ」

「やっと半分までできました」  
大会終了後の囲み取材で中島は開口一番、そう言って笑顔を見せた。プロ入り後に当面の目標として掲げた10勝の半分という意味だが、3年目での5勝到達に「やっと」という表現は謙そんが過ぎるだろう。



▲1~4位入賞者。3位の坂本は「23歳の自分が最年長で決勝を戦う日がこんなに早く来るとは思わなかったけど、若い世代で盛り上げるのが業界にとってはすごくいいこと」と笑顔で語った

### ●決勝ステップラダー



## ROUND1 GRAND CHAMPIONSHIP BOWLING2023 JPBA決勝大会

10月13・14日 ラウンドワン堺環状中央店



▲レギュラー部門優勝者。2週連続Vの中島(左)は「うれしい」と破顔一笑、谷合は6年ぶりの優勝に「長かったですね」と安堵の表情を浮かべた

レギュラー部門

## 谷合貴志が6年ぶり通算5勝目! 女子は中島瑞葵が2週連続のV6

ちやおちやおボウリング大会の翌週に行われた「ラウンドワン・グランドチャンピオンシップ2023 JPBA決勝大会」には、レギュラー・アクティブ

ジェネレーション・グランドジェネレーションの男女各3部門に、全国12のラウンドワン系列店舗で順次開催された予選ラウンドを勝ち抜いたプロと、前回大会(2019年)覇者及び推薦プロを加えた総勢230名が参加。予選6Gを経てレギュラー部門は男女各26名、アクティブジェネレーション部門・同8名、グランドジェネレーション部門・同6名の上位者が決勝トーナメントにて優勝を争った(1回戦~準決勝までは2G先取、優勝決定戦は1Gマッチ)。



▲谷合はこれが鈴木理沙(41期)との結婚後初勝利。優勝インタビューでは「奥さんに勝てないのは私のせい」と思わせてしまっていて申し訳なかったと懺悔のコメントも

クオリティ/(有)ユウキシシステムサービス)が17年の「JPBA創立50周年記念大会」以来6年ぶりの通算5勝目を挙げ、同女子は中島瑞葵が2週連続優勝(通算6勝)を達成。両者とも決勝トーナメントでは1Gも負けなしの「完全V」だった。

他2部門の優勝者は別表のとおり。表中の入賞者が11月11日、ラウンドワン堺環状中央店

で開催される「FINAL」にてJBC、NBF両アマチュア団体代表者との「国内最強ボウラー決定戦」(次号詳報)に挑む。



▲アクティブジェネレーション部門、男子優勝の坂田(右)は通算6勝目、女子優勝の鈴木は初タイトル

部門・同6名の上位者が決勝トーナメントにて優勝を争った(1回戦~準決勝までは2G先取、優勝決定戦は1Gマッチ)。その結果、男子レギュラー部門は谷合貴志(52期:株日本ケア



▲グランドジェネレーション部門、男子優勝の坂田(右)と女子優勝の富岡はともに初タイトル

### JPBA 決勝大会入賞者 (FINAL 進出者)

●レギュラー部門
男子優勝: 谷合貴志 (今季初、通算 5 勝)
藤永北斗/渡邊雄也/呉竹博之/工藤貴志/入口光司/川添興太/小林哲也
女子優勝: 中島瑞葵 (今季 3 勝目、通算 6 勝)
原野明花/姫路麗/宇山侑花/大久保咲桜/名和秋/本橋優美/寺下智香
●アクティブジェネレーション部門
男子優勝: 坂田重徳 (今季初、通算 6 勝)
中沢爽/酒井武雄/大友仁/高城明文/石原章夫/西川徹/宮崎淳
女子優勝: 鈴木晶子 (初タイトル)
近藤文美/長縄多緒子/松井八知栄/前田美津代/柴村尚美/関根直子/岡田郁子
●グランドジェネレーション部門
男子優勝: 浜田光博 (初タイトル)
斉藤正典/長谷宏/西田久良/柴田英徳/北野周一
女子優勝: 富岡雪枝 (初タイトル)
加藤八千代/鶴岡みさ子/斉藤悦子/斉藤志乃乃/時本美津子